公益社団法人
日本フェンシング協会

公益社団法人日本フェンシング協会

所在地　〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 9 階

SNS　Facebook :
https://www.facebook.com/japanfencing
Twitter : @FJE_fencing
Instagram : fje_fencing

WEB　協会オフィシャルサイト　https://fencing-jpn.jp
フェンシングの魅力にふれる情報サイト
「Fen-cing Now!」https://now.fencing-jpn.jp

事務局　一般的なお問合せ
電話：03-5843-0040
FAX：03-5843-0041
Mail：otoiawase@fencing-jpn.jp

広報　メディアに関するお問合せ
Mail : shuzai@fencing-jpn.jp

ご挨拶

会長
太田雄貴

ベンチャースポーツの先頭を走り
日本のスポーツ界を変えていく

2017 年 8 月にフェンシング協会の会長に就任することが決まったとき、真っ先に私の頭の中に思い浮かんだことです。
これまで、「金メダルをとる」ということを最上位の概念として運営してきましたが、現役時代、私がメダルを獲っても、フェンシングの競技人口は 思いのほか伸びませんでした。
確かにフェンシングの認知は上がったかもしれませんが、人気が出たわけではなかったのです。そして他の競技団体の数字も参考にしながら、様々な仮説・検証を繰り返した結果、強ければ競技人口が伸びるというわけではないという結論に至りました。
こうして、勝利至上主義から脱却し、強化だけに偏らないバランスのとれた協会運営を目指していくことにしました。さらにその過程で、フェンシングという、中世の騎士たちによる剣術を起源とする歴史のあるスポーツを、敢えて「ベンチャースポーツ」と表現し、既存の概念や枠組みにとらわれることなく、機動力を持って、前に進んでいくことを誓いました。
フェンシング界は、本来持っている高貴な精神性と、時代に先駆けるベンチャー精神の下、日本スポーツ界のロールモデルになるべく改革を進めながら、日本の社会に感動を提供するとともに、その先に新しい価値を創造してまいります。

協会理念

突け、心を。

MISSION

フェンシングの先を、感動の先を生む

「突け、心を。」のスローガンのもと、フェンシングを取り巻くすべての人々に感動体験を提供し、フェンシングと関わることに誇りを持つ選手を輩出し続けていくことを約束します。

VISION

動き続ける。突き続ける。前へ。

国際社会と同様にスポーツ界も、変化、進化なくして存続が困難な時代に突入したと言えます。この状況下では、今までと同じやり方では到底生き残ることはできません。
去年より今年、今年より来年と、常に進化しながら、スポーツ界のロールモデルとなれるように取り組んでいきます。それこそがフェンシング協会の使命だと考えるからです。
我々は、時代に先駆けて動き続け、時代の核心を突き続け、そして、変わり続けてまいります。

VALUE

Integrity
騎士道に基づく高潔な精神を有し自分を高める

Challenge
自ら考え挑戦し立ち向かう

Respect
相互信頼のもとに協調性を重んじ 仲間と切磋琢磨する

Fairness
公平・公正に戦い他者を尊重する

Creativity
過去にとらわれない独創的な アイデアを創出する

Global
世界に挑戦・貢献する

協会概要

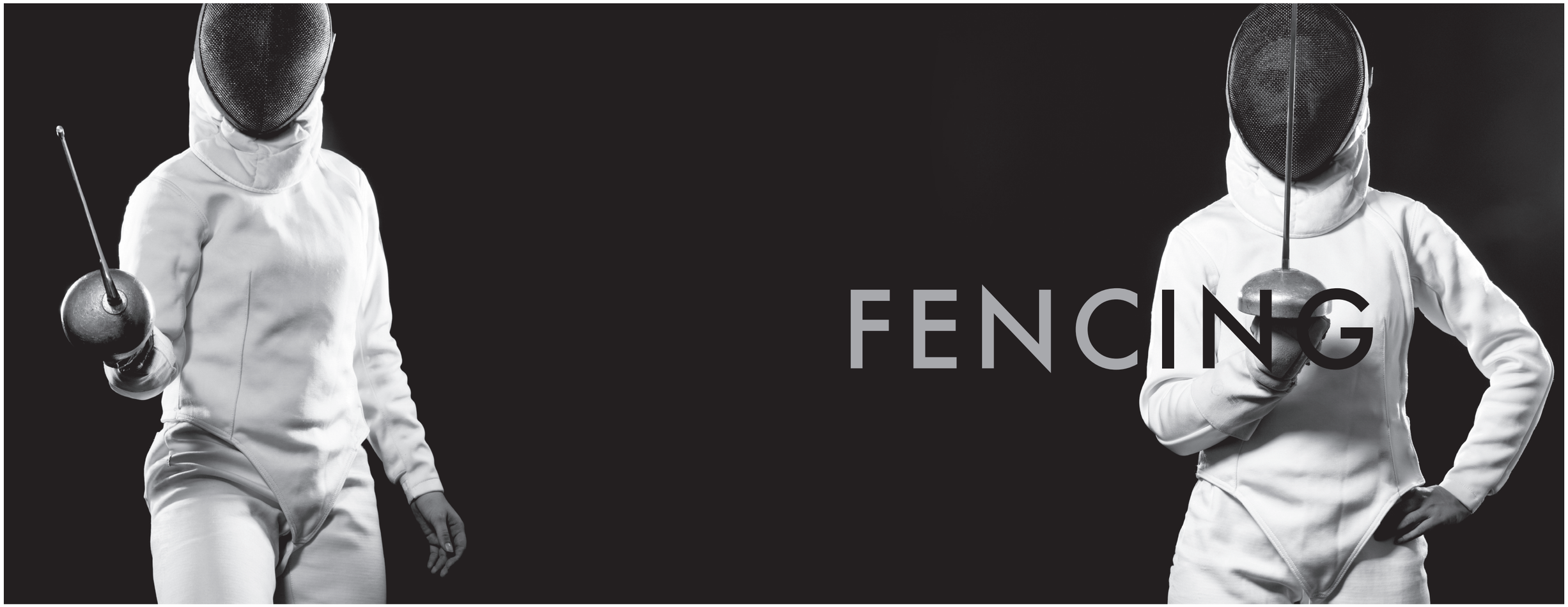
目的
日本におけるフェンシング競技を統括する唯一の団体として、フェンシング競技を通して国民の心身の健全な発達に寄与すること

概要
日本におけるフェンシング競技を統括し、フェンシングの普及促進を図る公益団体、国内競技連盟です。47都道府県フェンシング協会ならびに 2 連盟（全日本学生フェンシング連合、全国高等学校体育連盟フェンシング専門部）の計 49 の支部により組織されています。

事業
フェンシング競技の普及に関する各種事業
全国規模の各種競技会の開催
各種国際大会への代表選手派遣
審判員、指導員の養成
広報宣伝活動の実施
功労者、優秀選手の表彰
各種規則の制定

沿革

昭和 11 年 10 月 23 日	大日本アマチュアフェンシング協会の名称で創立
昭和 18 年 12 月	太平洋戦争の戦線拡大により一時解散
昭和 22 年 8 月	名称を日本フェンシング協会と改め、再発足
平成 3 年 4 月 1 日	法人格取得（社団法人）
平成 25 年 7 月 1 日	公益社団法人へ移行



フェンシングとは

フェンシングはヨーロッパ中世の騎士道華やかなりし頃、「身を守る」「名誉を守る」ことを目的として磨かれ、発達してきた剣技です。
第 1 回近代オリンピック (1896 年、アテネ) から現在まで継続されている、数少ない競技の 1 つです。

Sabre
サーブル

剣身のどの部分でも攻撃ができるため、突きと斬りがある。有効面に触れただけでランプが点灯するが、フルーレと同様に優先権の駆け引きが繰り広げられる。突きと斬る動作によるダイナミックな動きが観られるのが特徴。

Epee
エペ

全身が有効面。同時に突いて、ランプが両側点灯すれば両方の選手にポイント。判定がシンプルでわかりやすいため初心者でも観て楽しむことができる。

Foil
フルーレ

攻撃は胴体への突きだけ。攻撃ー防御ー攻撃ー防御といった攻防が瞬時に行われる戦いに特徴があり。ランプの点灯だけではなく優先権の駆け引きにも注目。

フェンシング日本代表の活躍

現会長の太田雄貴が北京 2008 オリンピックで史上初の銀メダル（ フルーレ ）を獲得した以降も強化が進み、男女各種目において世界で活躍する選手を数多く輩出しています。

フェンシング日本代表選手は、年間約 10 試合の国際大会に出場し、世界の強豪と戦っています。

1 年間に参加する主な大会

世界選手権	1 大会
大陸（アジア）選手権	1 大会
グランプリシリーズ	3 大会
ワールドカップ	5 大会

その他不定期に開催される大会

オリンピック	4 年に 1 回
アジア大会	4 年に 1 回
ユニバーシアード	2 年に 1 回　など

※世界選手権はオリンピック開催年は開催なし
（ 次回世界選手権は 2022 年予定 ）
※世界ランキングは 2020 年 9 月 30 日現在

山 田 優　男子エペ
三重県／ 26 歳

世界ランキング 2 位
2020 年グランプリ ブダペスト大会金メダル、グランプリ ドーハ大会銅メダル

敷 根 崇 裕　男子フルーレ
大分県／ 22 歳

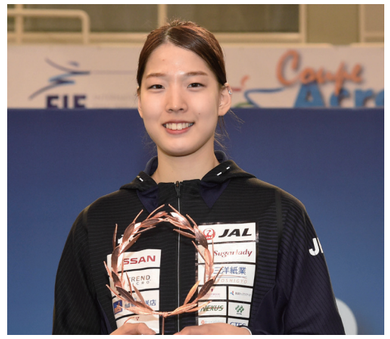
世界ランキング 20 位
2017 年世界選手権銅メダル、2019 年アジア選手権金メダル

西 藤 俊 哉　男子フルーレ
長野県／ 23 歳

世界ランキング 27 位
2017 年世界選手権銀メダル、2019 年アジア選手権銅メダル

東 晟 良　女子フルーレ
和歌山県／ 21 歳

世界ランキング 10 位
2018 年ワールドカップアルジェリア大会銀メダル、2019 年アジア選手権銅メダル



江 村 美 咲　女子サーブル
大分県／ 21 歳

世界ランキング 24 位
2018 年ワールドカップアメリカ大会銀メダル、2020 年ワールドカップギリシャ大会銅メダル

松 山 恭 助　男子フルーレ
東京都／ 23 歳

世界ランキング 34 位
2017 年ユニバーシアード大会銀メダル、2019 年ワールドカップドイツ大会 6 位

見 延 和 靖　男子エペ
福井県／ 33 歳

世界ランキング 9 位
2018–19 シーズン全種目を通じて日本フェンシング史上初となる年間世界王者に
リオデジャネイロ 2016 オリンピック 6 位入賞。FIE アスリート委員も務める

上 野 優 佳　女子フルーレ
大分県／ 18 歳

世界ランキング 7 位
2018 年ユースオリンピックで日本フェンシング史上初の個人戦金メダル、同年世界選手権でもジュニア・カデ 2 部門を制覇し、3 冠の快挙達成

佐 藤 希 望　女子エペ
福井県／ 34 歳

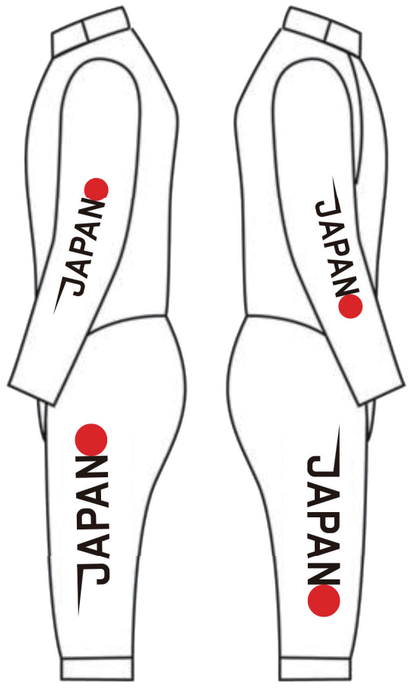
世界ランキング 44 位
ロンドン 2012 オリンピック出場、リオデジャネイロ 2016 オリンピック 8 位入賞

吉 田 健 人　男子サーブル
東京都／ 26 歳

世界ランキング 44 位
2019 年世界選手権でオリンピック 2 連覇中の選手を破る大金星でベスト 16 進出

フェンシング日本代表の国章エンブレム

JAPAN

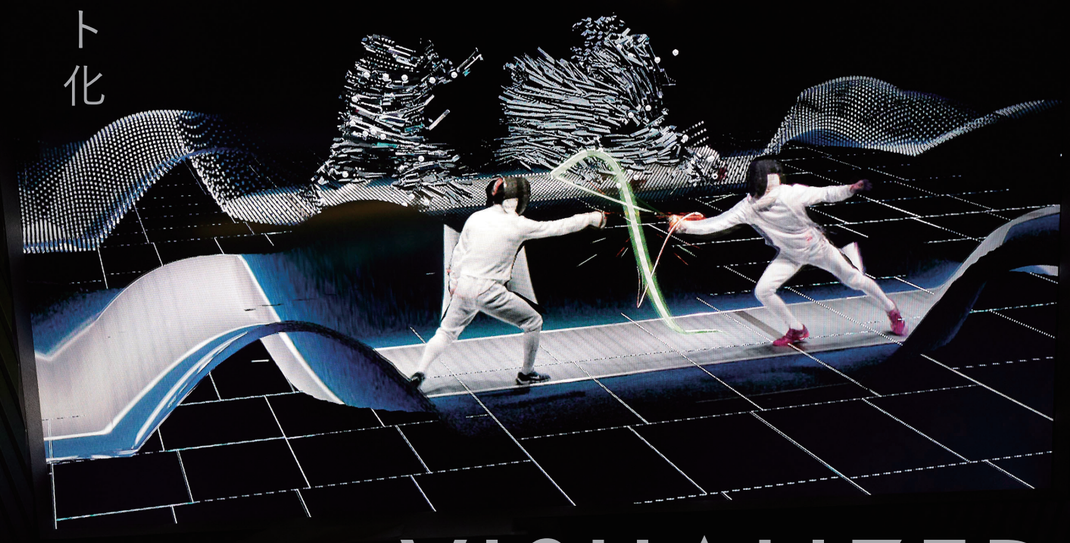


2020 年 7 月に国章エンブレムを刷新。
秋山具義氏によるデザインが話題となりました。「突け、心を。」の精神を、JAPAN の J から突き出されている剣をイメージしたラインで表現。赤い丸は日の丸をイメージしており、日本の代表であるという意識を選手に持ってほしいという想いが込められています。

テクノロジーによるエンターテインメント化

テクノロジーを駆使し、フェンシングのエンターテインメント化に挑戦しています。

モーションキャプチャと AR 技術を用い、即時に剣先の軌跡を可視化します。長年の課題であったフェンシングの「わかりづらさ」を解決し、フェンシングの「観る」スポーツとしての可能性を大きく高める技術として、フェンシングのみならず各界から注目されています。（電通、ライゾマティクスリサーチとの共同開発）



VISUALIZED

2016

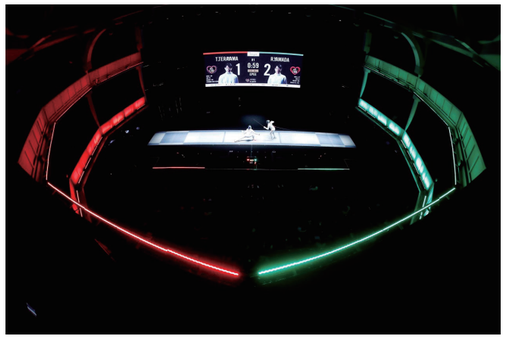
観客 300 人程度の全日本選手権。
ここから徐々にテコ入れを開始。

2017

フェンシングから感動体験を伝えることを目指し、観客 1500 人程度まで拡大

2018

東京グローブ座で開催
チケット単価　S 席 5,500 円〜が
販売開始 40 時間で 700 席完売
- 大型 LED ディスプレイによる演出
- 選手・審判の心拍数を表示
- 観客の応援の可視化
- スポーツプレゼンテーション
- インターネット・ABEMA 配信



東京グローブ座での開催

フェンシングから「感動体験」を伝えるために。満員の会場で選手が輝くために。
全日本フェンシング選手権大会は進化し続けています。

「NEW STANDARD」
2020 年 日本フェンシング史上初の全日本選手権 完全オンライン開催。コロナ禍でも歩みを止めない。この環境下だからこそスポーツ観戦の新しい価値創出に挑戦するべく、「完全オンライン」で開催しました。

完全オンライン開催

2020

NEW MANAGEMENT
安心安全の NEW STANDARD

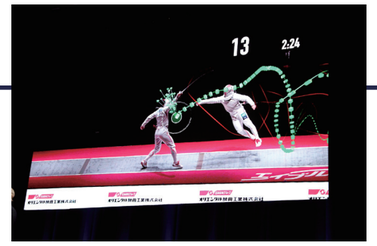
無観客開催、かつ最低限の人員での運営。さらに事前準備からリモートを積極活用。専門家の指導の下、徹底した新型コロナウイルス対策を実施。

NEW EXPERIENCE
観戦体験の NEW STANDARD

インターネットで試合を配信。フェンシング・ビジュアライズドをはじめとする様々な「オンラインならではの観戦体験」を提供。NTT 西日本様の技術を活用し、新たな観戦体験を創出。

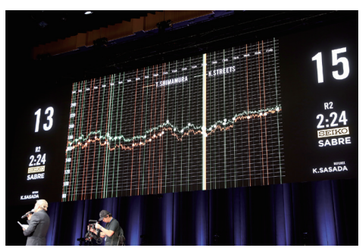
NEW ENGAGEMENT
繋がりの NEW STANDARD

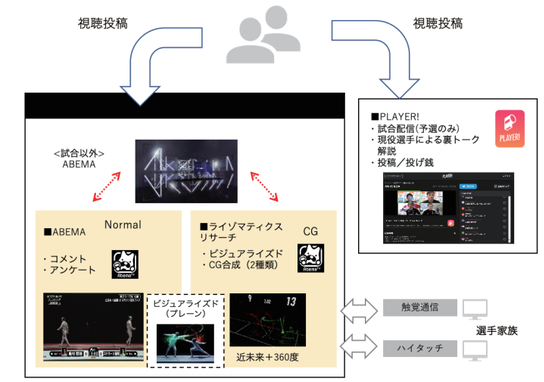
観戦者からの能動的な応援を可視化するための手段として、クラウドファンディングやギフティングシステムを導入。



2019
LINE CUBE SHIBUYA での開催

LINE CUBE SHIBUYA（旧渋谷公会堂）で 2 日間に渡り開催、3198 人を動員。
- ドラゴンクエストとの コラボレーション
- リプレイ映像へのフェンシング・ビジュアライズド搭載





選べる配信プラットフォーム

3 年目となる ABEMA での配信は、試合観戦を楽しむ Normal Channel に加え、テクノロジーを駆使した演出でアートのように楽しめる New Experience Channel も開設。
さらに Player! では、初めて予選映像の配信を実施。決勝戦では選手による裏解説、また、予選決勝を通じたプレイヤーサポート（ギフティング）の機能も提供。視聴者が興味にあわせて大会を楽しめるように多様な配信プログラムを用意しました。

リモート応援

NTT 西日本と共同で、出場する選手と離れた場所にいる家族をつなぐ取り組みを実施。選手の心拍を家族に届けるデバイスや、家族と選手がリモートでハイタッチし、振動を届けあうモニターなど、新たな形の応援・観戦を実現しました

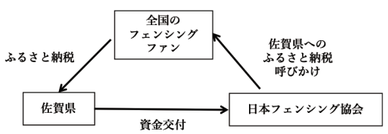
自治体との協業

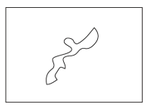
日本全国の様々な自治体と提携。フェンシングの裾野を拡大すると同時に、フェンシングを通じた地域活性にも取り組んでいます。

佐賀県

佐賀県と連携協定を締結し、かつ全国唯一のＪＯＣ強化指定センターをもつ佐賀県がふるさと納税制度を活用し、共にフェンシングの振興に取り組みます。佐賀県にふるさと納税を行って頂くことで、控除上限額内であれば実質自己負担 2,000 円のみで、フェンシングを応援しながら税金の還付・控除を受けることが出来ます。

１　佐賀県のふるさと納税「施策応援コース」に「日本フェンシング協会との連携によるフェンシングの振興」を創設
２　日本フェンシング協会が、全国のファンに「佐賀県へのふるさと納税」を呼びかけ
３　寄付額の大部分（ふるさと納税に伴う事務手数料など控除）を県から日本フェンシング協会に交付、協会が事業を実施





東京都渋谷区

スポーツで「クリエイティブが集まる街」を盛り上げることを目的に、2019 年に相互協力に関する協定を締結しました。フェンシングの普及・振興や、フェンシングを通じた地域コミュニティ活性化、次世代育成などを協働で推進していきます。また、2020 年からガバメントクラウドファンディングを開始。渋谷区へのふるさと納税を通じ、選手の強化費や遠征費への寄付ができる制度を始めました。

裾野の拡大・競技レベルの底上げ
・生涯スポーツの推進
・学校訪問プロジェクトの推進

環境づくりの推進
・渋谷内の有効活用できていない細長い土地をフェンシングができる場所に

静岡県沼津市

フェンシングを通じたまちづくりを推進するために、2019 年 2 月、全国初の包括連携協定を締結しました。将来的にフェンシングの世界大会やトップレベルの合宿を恒常的に開催できる環境をめざし、トップ選手の育つ環境づくりや沼津のフェンシングを象徴する世界レベルの選手輩出、裾野の拡大などを連携して進めていきます。

裾野の拡大・競技レベルの底上げ
・生涯スポーツの推進
・一貫指導体制の整備

環境づくりの推進
・学校 / 企業の協力体制の構築

主な改革

プロフェッショナル人材の採用

ビジョナル社のビズリーチとの協業で副業・兼業限定の外部プロフェッショナル人材を採用。応募総数1,127名から4職種4名が採用され、改革の中核を担っています。

・経営戦略アナリスト
・強化副本部長
・PRプロデューサー
・マーケティング戦略プロデューサー

遊ぶスポーツへ

日本最大の遊びのマーケットプレイスを運営するアソビュー社との協業で、気軽にフェンシングを体験できるサービスを提供。“見る”スポーツから“遊ぶ”スポーツへ、気軽に楽しめるフェンシング体験を開発しています。

・初心者が楽しめるコンテンツ開発
・太田会長による競技説明等の動画開発
・トップアスリートによる体験イベント開催

Athlete Future First

アスリートの“今”だけでなく引退後の“未来”にも真剣に向き合う。勝利至上主義から脱却し、「Athlete First」から「Athlete Future First」へと進化します。

・ベネッセとの提携により選手がどこでもオンラインで受講できる英語力強化プログラムを提供
・英語検定「GTEC」の導入

応援する楽しさの醸成

アスリートによる全国の小中学校への訪問活動を実施。競技の解説やデモンストレーションを通じて、より多くの児童・学生たちに、競技の魅力はもちろんのこと、「応援する楽しさ」を体感してもらうことを目的としています。

ご賛同頂いている企業様

当協会の活動趣旨にご賛同頂き、多くのスポンサー・パートナー企業様にご支援を頂いています。
（2018年以降ご協力頂きました企業様をご紹介）